

議長定例記者会見（令和4年12月9日）

【報 告】

それでは、まず初めに、第312回定例会の採決結果について御報告いたします。
知事提出議案36件のうち、議案33件を可決・認定・同意し、報告のみが3件
でした。

議員提出議案については、提出された2件が可決されました。

請願については、受理された1件が採択となりました。

新型コロナウイルス感染症が大変拡大している中であっても、本日、最終日の採決を議員46名全員が迎えることができました。今後も年末年始様々な行事等がありますが、感染対策に最大限注意しながら、議員として、また議会として様々な活動を続けて参りたいと考えております。

【質 問】

（記 者）

議員発議で旧統一教会の被害防止及び被害者の救済措置の迅速な措置を求める意見書が採択され、国会でも救済法案が通過しました。今回の意見書に関しての議長の思いや今後の対応を伺いたい。

（三橋議長）

今回2件の意見書が提出されましたが、最終的に全会派が一致してまとまった意見書を可決させていただきました。

この問題については、国でも大きく議論していましたが、私としても大変重要な問題だと思っています。

そして、国でも法案が可決されましたけれども、我が県議会としてもこの問題に対してしっかりと取り組んでいただきたいという意見を強く国に示す意味で、今回の意見書を出させていただきました。

今後、救済法を施行するに当たりいろいろな問題が出てくると思いますので、見直し期間を待たずとも、議論すべき点はきちんと議論していくべきと考えます。

(記者)

2022年も最後となりましたので、今年一年を振り返っての所感を伺います。

(三橋議長)

新型コロナウイルス感染症の対策に振り回されながら、いろいろ制約のある中で、の議会活動でありましたが、そうした中で県内外の調査や要望活動を再開することのできた委員会もありました。

そして、新型コロナウイルス感染症だけでなく、高病原性鳥インフルエンザのように一度発生すると大きな影響を及ぼすものへの感染症対策を、来年も継続して取り組むべき課題だと考えております。

それから今年は何と言っても8月3日からの大雨被害であります。

私もそうではありますが、知事、県議会においても新幹線・鉄道問題対策特別委員会の阿部委員長、山谷副委員長をはじめ各常任委員会の委員長、副委員長の皆さん、そして議員一人一人が現地を視察し、住民の声を聞き、国に対して、県に対していろいろ発言をした中で、私たちも強く要望してきた五能線の全線が12月23日に再開されることになり、一足早いクリスマスプレゼントをいただいたような感じですか。結果としてうれしい反面、現実には元の状態に戻っただけということでもありますから、これから全線開通したときには、西海岸の新たな魅力を発信していかなければならないと思います。

そして、この大雨で、大規模に冠水した水田農家の皆さんに、農業共済の払い込みが始まっていますが、実際に減収になったけれども、今の制度では減収分が全く補ってもらえないといった例も数多く聞いています。そして、野菜や果樹の中には農業共済の対象にならないものもあります。リンゴのように国が新たな制度を設けたものもあります。これらの大雨被害に対して、今回も元気な地域づくり支援事業とか国土強靱化加速化五カ年の補正も組まれましたが、今後も議会としてやるべきことをしっかりとやって、こういったことを最大限有効に活用しながら、この大雨被害を乗り越えていくため、是非みんなで一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

また、今行われているワールドカップ、本県出身の柴崎岳選手は選出されたものの試合に出ることはできませんでしたが、多分ピッチに立たずとも同じ気持ちで戦ってくれたものと思います。私自身もサッカー観戦は大好きで、ワールドカップ前にまずテレビを買い替えて、自分の名前になんで背番号13、KAZUというネームをいれたユニフォームを作って、下のショーツ、ソックスまではいて、3試合とも観戦させていただきました。議会中だったので、休息は十分取ったうえでのリアルタイムでの観戦でしたが、熱く燃え上がった思いがあります。サッカー好きとしては、まだ、これからの準々決勝、準決勝、決勝がありますので、今後も公務、政務に影響のない範囲で観戦していきたいと思っています。

今回対戦したクロアチアのチームの選手が、モドリッチとかコバチッチなど「チ」の付く名前が多かったですが、日本はネット記事によると前線から、前田、鎌田、守田、吉田、権田とセンターラインが「田」の付くチームでありました。そこで県議会を見ても「田」の付く議員が46人中10人、代表に選ばれるのは「田」の付く方が多いのかなと感じました。私たちは、これからも青森県民の代表として一丸となって、我々の場合は何が勝利か何が敗北か分からないところがありますが、是非、全会派、党派を超えて一丸となって青森県の発展のために、これからも議論

を尽くして参りたいと考えております。

今年一年が終わるということで、来年4月には改選もあります。私たちの任期4月29日までは、残り4カ月と20日程度になるかと思いますが、一日たりとも無駄にすることなく、私たちにはアディショナルタイムもPKもないので、残された任期の中で自らがやるべき事を悔いなくしっかりとやっていこうという思いをした一年でありました。

(記者)

来年に向けての議会としての課題を伺います。大雨災害に関しては今ご指摘ご示唆がありましたが、その他に県内ではみちのく風力発電とか五能線が復活する一方で津軽線が復興のめどが立っていないなど、2023年に向けての課題をどのように考えておりますでしょうか。

(三橋議長)

課題は解決すれば、次の課題が新たに生まれてくるものと考えております。そして、今の時点では解決できていない継続した課題が数多くあります。本県の一番の課題はやはり人口減少、これをいかに克服していくかということですので、そこに向けた様々な議論を進めていきたいと考えております。

議会として取り組む中で、我々で限界のある部分をいかに国に理解してもらうか、そして、JR等関係する機関にいかに理解してもらうかということも今後も粘り強く交渉していかなければならないと思っています。

自らの思いだけではなくて、それが日本全体の発展にいかに寄与するかということも我々は青森県の代表として国に強く訴えるとともに、今後知事が行おうとする施策に対してより監視能力というものも持ちながら、政策提言も併せて行っていくといった議会の役割を今後とも果たしていかなければいけないと思っています。

(記者)

しゅん工延期されていた日本原燃の再処理工場に年内にも新しい工程が出るそうですが、今後の展望とか現在の進捗についての議長の所見を伺います。

(三橋議長)

年内には一定のスケジュールを示すという形で我々に報告をいただいたわけですから、仕事納めまでには何らかの報告をいただけるものと考えております。

審査の状況を見ますと、なかなか難しい問題もあると思います。

先ほどの質問にもあったような風力発電の話もそうですが、環境といかに向き合っていくかという課題を持ちながら、エネルギー政策という国策としての原子力燃料サイクルの位置付けを、先日、原子力発電関係道県議会議長協議会で国に対して確認する機会もありました。そういった機会を捉えながら、今回の定例会の中でもエネルギー問題でいろいろな話し合いもなされておりますので、こういったこともこれから議論していかなければならないと思っています。

しゅん工する時期をただ示すだけではなく、その示した時期で間違いなく実現するというを示してもらわなければ、27回目の延期となるようなスケジュールを示されても困ります。是非今回示していただくスケジュールがしゅん工につながるような形を取っていただければということで、もうしばらく待たせていただきたいと思っています。